

平成18年度環境技術実証モデル事業検討会
ヒートアイランド対策技術ワーキンググループ会合（第2回）
議事要旨

1. 日時：平成18年9月19日（火） 13：00～14：30
2. 場所：砂防会館 別館3階 立山
3. 議題
 - （1）平成18年度第1回WG議事概要について
 - （2）ヒートアイランド対策技術（建築物外皮による空調負荷低減技術（仮称））
実証試験要領（第1次案）について
 - （3）今後の検討スケジュールについて（予定）
 - （4）その他
4. 出席検討員 佐土原聡、石野久彌、前川佳之、森川泰成
欠席検討員 足永靖信、下田吉之
5. 配付資料
 - 資料1 平成18年度ヒートアイランド対策技術ワーキンググループ会合（第1回）
議事概要
 - 資料2 ヒートアイランド対策技術（建築物外皮による空調負荷低減技術（仮称））
実証試験要領（第1次案）
 - 資料3 実証試験要領作成の方向性について（事務局案）
 - 資料4 今後の検討スケジュールについて（予定）
6. 議事

会議は公開で行われた。

 - （1）平成18年度第1回WG議事概要について
資料1を配付し、意見等については事務局が個別に受け付け対応することとなった。
 - （2）ヒートアイランド対策技術（建築物外皮による空調負荷低減技術（仮称））実証
試験要領（第1次案）について
事務局から、実証試験要領作成の方向性について、資料2、3に基づき下記の通り説明を行い、了承された。
 - ・ JIS に準拠して測定した窓用日射遮蔽フィルムの物性値、建築物の標準モデル等に基づいて設定した計算条件を用いた、数値計算による導入効果の推算を、実証試験の方法とする。
 - ・ 高反射性・遮熱塗料については、現在日本塗料工業会にて試験方法の基準化を検討している段階であるので、本年度は具体的な測定方法を実証試験要領に示さず、

今後試験方法が基準化された後に、実証試験要領に盛り込む具体的な実証試験の方法についての検討を行う。

検討員からは、試験方法について、主に下記の指摘がなされた。

- ・ 導入時の効果を試算する際は、建築設計等に使用する、既存の各地方における平均的な日射量等の推移データを活用し、年間を通じた効果を算定してはどうか。

事務局から、対象技術の名称・定義について、資料2等に基づき下記の通り説明を行い、了承された。

- ・ 実証試験要領では、実証試験要領で具体的な試験方法を定めない技術についても、実証機関が設置する技術実証委員会の判断により、試験方法を検討できることにしている。
- ・ そのため、対象技術を日射遮蔽フィルムに限定せず、対象技術名称を「建築物外皮による空調負荷低減技術」と想定している。

事務局から、実証試験要領策定の今後の手続きについて下記の通り説明を行い、了承された。

- ・ 実証試験要領第1次案については、WGでの指摘を踏まえて事務局にて修正し、座長への確認を行った上で、第2次案としてとりまとめる。その後、国民の方々に意見募集を行った上で、これを反映した第3次案を作成する。

(3) 今後の検討スケジュールについて

事務局から、資料4に基づき説明。

- ・ 既に本年度の残り期間が少ないことから、実証機関選定後に、実証機関が行う実証対象技術の公募、実証試験の実施、実証試験結果報告書の作成等に必要な期間を確保するため、検討スケジュールは可能な限り前倒しで進めるべきことが指摘された。

(文責：環境省水・大気環境局環境管理技術室 速報のため事後修正の可能性あり)